



宮島崎より南方を望む
(左方——細岡高台)

釧路湿原

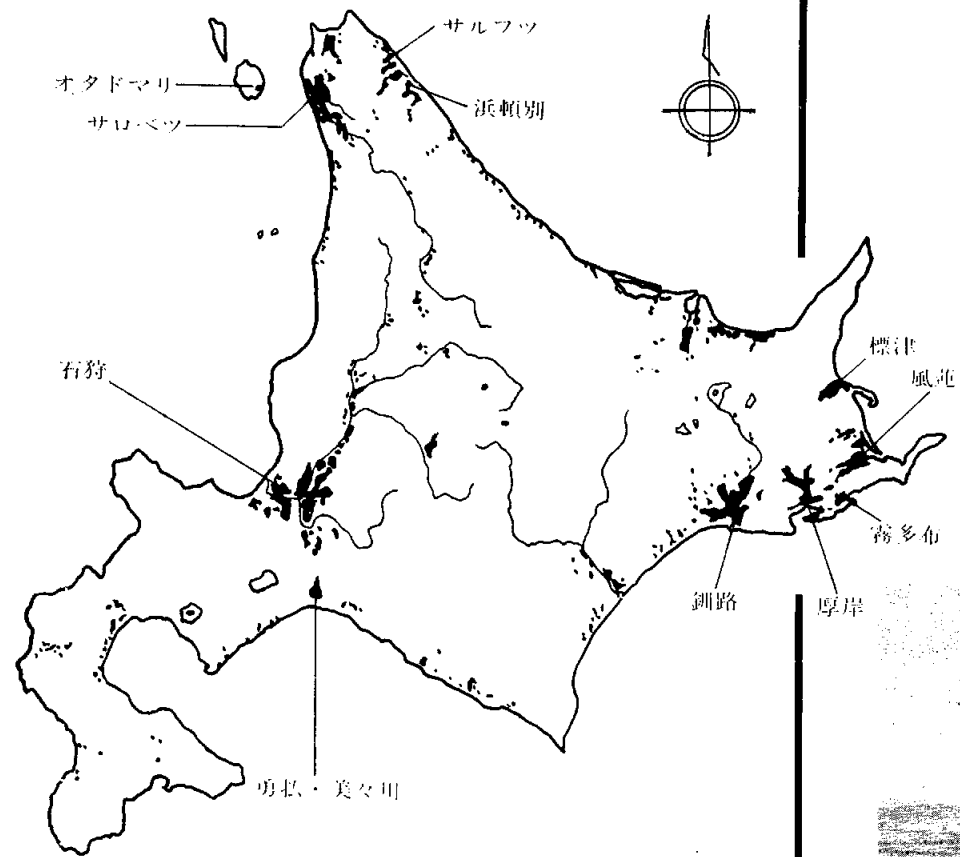
エゾカンゾウ



北斗地区

村本輝夫
(北海道撮影社)





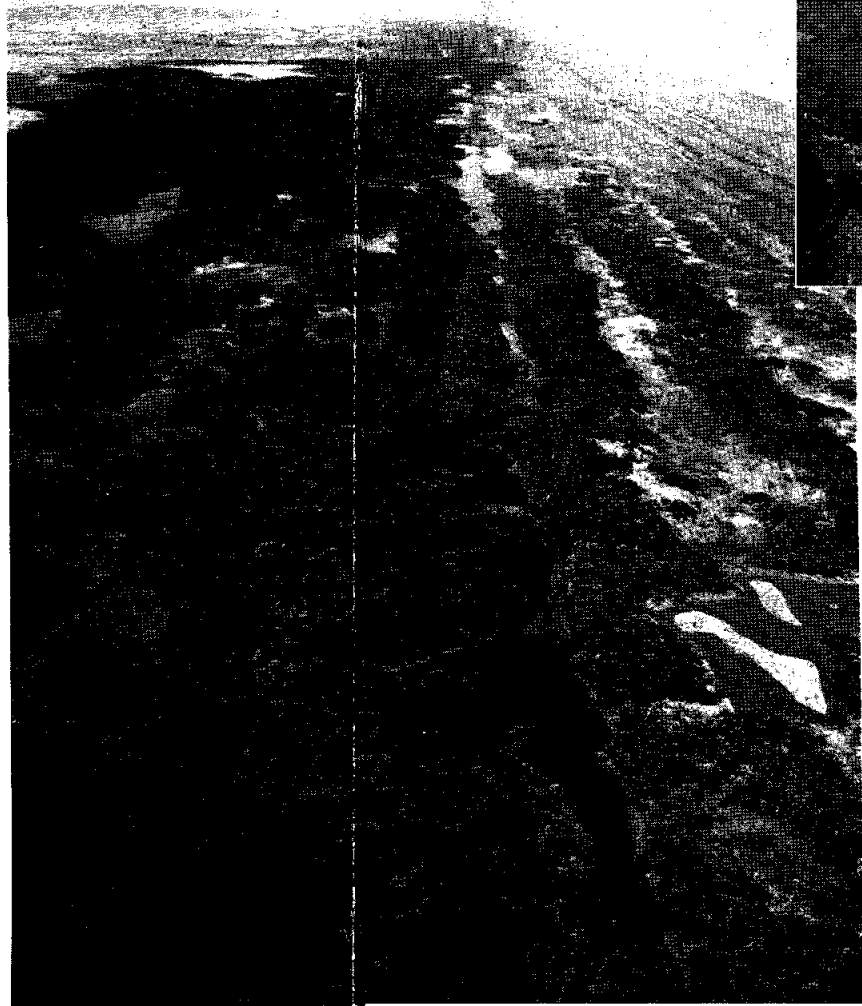
北海道の湿原の分布

サロベツ原野

稚咲内湖沼群



パンケ沼よりサロベツ川



ミズバショウ

北海道の湿原総面積は二〇万ヘクタールと算定されていて、その大部分は沿海部の河口付近を中心として分布している。内陸部のもはほとんどが高山性のもので、面積はいずれも沿海部のものに比べて、ごく小さい。

湿原のうち、主としてハンノキ・ヨシ群集に代表される低層湿原は全体の約七〇・六パーセント、ママガヤ群集に代表される中間湿原は約一二・四パーセント、ミズゴケを主とする高層湿原は約一六・九パーセントの面積を占める。

発達部位から見ると、面積にして十一万六、〇〇〇ヘクタール、割合にすればおよそ六〇パーセントが河川流域にあり、石狩川、サロベツ川および十勝川、釧路川流域に含まれるものもつとも大きい。このうち、現在までに七〇パーセント以上に当たる部分が開発された。

本州の湿原に比べて、北海道の湿原は古くから開拓のために土壌的・農業利用的調査が行われる例が多かった。これは先に記したように低地の河川流域に分布するものが多かったことに由来する。石狩川流域のものは水田に、天塩地方のものは多くは牧野に転換された。

(編集委員会)